エコアクション２１

環境活動レポート

レポート対象期間　　令和4年９月～令和5年８月

作成日　　令和5年10月31日

第　11　版

三愛建設工業株式会社

目　　次

１.　会社の概要 P1

２.　実施体制図 P2

３.　環境方針 P3

４.　環境目標 P4、P5

５.　環境活動計画 P6

６.　環境目標と実績 P7

７.　環境活動の取組結果の評価及び次年度の取組内容 P8、P9、P10

８.　環境法規等の遵守状況　P13

９.　代表者による全体の評価と見直し　P14

1．会社の概要

（1）　事業者名及び代表者氏名

事　業　所　名：　三愛建設工業株式会社
代 表 者 氏 名：　代表取締役　堀本英夫

（2）　事業所所在地

本　　社：　〒861-5287 熊本県熊本市西区小島9丁目18番36号

（3）　環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者：徳永修一
☎０９６－３２９－３３３１
E-mail　：　sanai@helen.ocn.ne.jp

（4）　事業内容

特定建設業　熊本県知事許可　（特－1）　第8941号
（土木工事業、とび・土木工事業、舗装装工事業、水道施設工事業）

産業廃棄物収集運搬業　熊本県知事許可　第０４３０１０７７５９１号
取扱い品目（紙くず、木くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類汚泥、廃プラスティック類（これらのうち石綿含有産業廃棄物であるものを含み、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
※自社工事で発生した産業廃棄物のみ取扱い。

（5）　所有車両・重機

バックホウ　　0.45m3級×１台　0.25m3級×１台　0.20m3級×２台
（軽油）　　0.13m3級×１台

運搬車両　　３ｔダンプ×１台　　２ｔダンプ×１台
（軽油、ｶﾞｿﾘﾝ）　軽トラック×１台

営業用車両　　軽　貨　物　×　10　台　　普通乗用車×1台
（ガソリン）　　（内、リース2台）

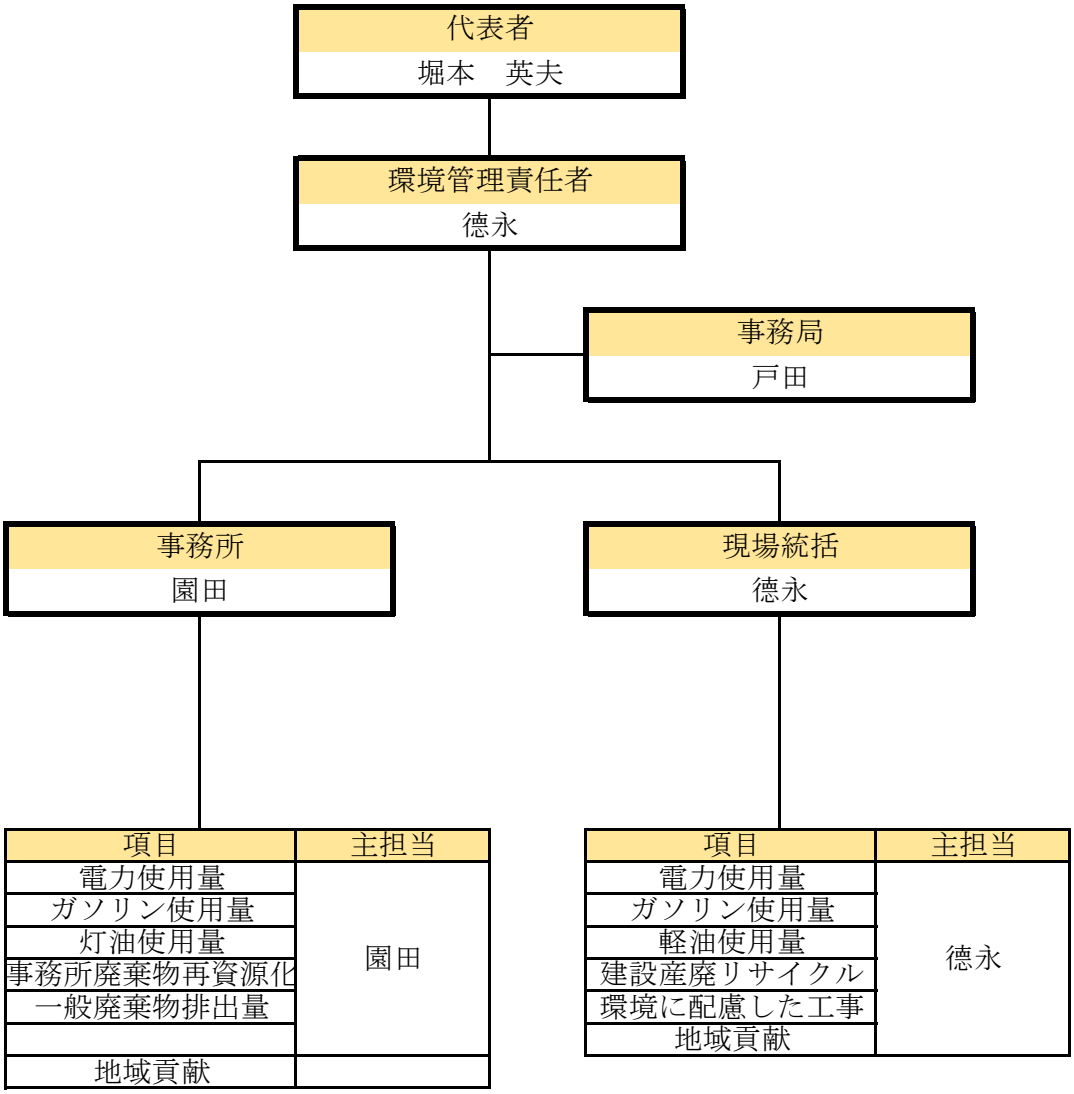
（上記運搬車両のうち産業廃棄物収集運搬車両２台　産業廃棄物は自社運搬のみ）

（6）　事業規模

資　　本　　金　７０（百万円）
完 成 工 事 高　４３４（百万円）
創　　業　　年　1981年2月28日
事　業　年　度　９月～８月
従　業　員　数　１３名

（7）　認証登録範囲
①事業所　　本社
②活動　　土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業

2. 実施体制図



環境経営システムの役割と責任

代　　表　　者	・環境方針の制定及び改定、環境目標及び環境活動計画の承認 ・環境経営システムの全体の取組状況の評価と全般的見直し(年１回以上) ・環境取り組みに必要な資源・人材の確保
環 境 管 理 責 任 者	・環境経営システム構築・運用の責任者 ・環境経営システムの代表者への報告 ・環境目標・環境活動計画の確認、進捗確認と修正の指示 ・環境情報の外部への連絡、緊急事態発生時の判断 ・問題の是正と予防措置の判断 ・環境教育訓練の計画と実行
環 境 管 理 事 務 局	・環境管理責任者の代行、環境活動の事業所での推進 ・環境目標・環境活動計画の作成 ・環境活動計画の進捗の把握 ・環境実績データの集計 ・環境文書作成発行、環境記録作成管理

3.　　環境方針

【　経営理念　】三愛建設工業㈱　8つの誓い

1）「おかげさまで」の感謝の気持ちを忘れません
2）最後まで決して手を抜きません
3）常に技術の向上を目指します
4）次につながる仕事をします
5）チームワークを大切にします
6）「企業は人なり」の精神で人を育てます
7）仕事やボランティアを通じ社会に貢献します
8）何に対しても「ありがとうございます」の思いで、誠実に仕事に取り組みます

【　基本理念　】

三愛建設工業株式会社は水と緑豊かなこの地熊本に本社を置き、地域の発展に貢献する会社を目指しています。社会インフラの整備を行う中で貴重な自然を次世代に引き継ぐことを使命と受け止め、会社全体で環境保全に取り組みます。

【　行動計画　】

１．環境負荷の低減と、環境保全のために次のことに取り組みます。
　①　電力・自動車及び重機燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の低減。
　②　省資源（水）、廃棄物の３Ｒ（減量、再使用、再生利用）の推進。
　③　環境に配慮した施工の推進。
　④　地域社会への貢献。

２．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
３．活動結果をレポートにし、社内外に公表します。
４．環境方針、活動の目的、内容を全社員に周知し意識付を行い、環境経営の継続的改善を行います。

2012年12月01日　制定

2020年10月31日　改定

三愛建設工業株式会社

代表取締役　堀本英夫

4.　中期環境目標（3年）

事業年度：９月～翌年８月

項　　目			単　位	2018年～	2021年～	2022年～	2023年～
				平成30年度	令和3年度～	令和4年度～	令和5年度～
				実績基準	目標基準	目標基準	目標基準
①	CO2排出量		(kg-CO2)	107,625	104,396	103,320	98,154
				基準	対R1年度比-3%	対R1年度比-4%	対R1年度比-5%
②	電力使用量	事務所	(kWh)	9,028	8,757	8,667	8,234
				基準	対R1年度比-3%	対R1年度比-4%	対R1年度比-5%
		現場	(kWh)	8,418	8,165	8,081	7,677
				基準	対R1年度比-3%	対R1年度比-4%	対R1年度比-5%
③	ガソリン使用量		ℓ	7,530	7,304	7,229	6,867
				基準	対R1年度比-3%	対R1年度比-4%	対R1年度比-5%
④	軽油使用量		ℓ	21,674	21,024	20,807	20,590
				基準	対R1年度比-3%	対R1年度比-4%	対R1年度比-5%
⑤	灯油使用量		ℓ	290	281	278	265
				基準	対R1年度比-3%	対R1年度比-4%	対R1年度比-5%
⑥	産業廃棄物リサイクル率		建設リサイクルのリサイクル率100%				
⑦	一般廃棄物排出量削減		分別活動を積極的・確実に行う				
⑧	環境に配慮した工事		全ての工事において環境に配慮した工事を行う				
⑨	ボランティア活動		年２回				

※CO2排出量＝　（１：電気kWh）×0.347　九州電力H30年度調整済み排出係数
（２：軽油 L）×2.58kg-CO2/L
（３、ガソリンL）×2.32kg-CO2/L
（４、灯油L）×2.49kg-CO2/L
（５、LPGkｇ）×3.00-kg-2/kg　　1m3＝2.07ｋｇ

※水使用量については、隣に住む事務所の貸主の水道を使用しており、量水器は1つしかなく、
水道料金も 事務所賃料に含まれており管理できないので除外している。節水活動を実施する。
※LPガスは使用量が少ないため目標には設定せず、日常で省エネ活動を実施する。CO2排出量には含めて管理する。

※化石燃料の管理方法について

化石燃料のうちガソリン及び灯油については、受注額に大きく影響を受けないため
下記のとおり過去5箇年の平均により基準値を設定し、管理するものとする。

事業年度		受注額（千円）	軽油(ℓ)
3	3.9～4.8	321,696	5,804.60
2	2.9～3.8	467,279	13,388.00
1	1.9～2.8	264,209	11,750.00
30	30.9～31.8	252,563	19,930.48
29	29.9～30.8	345,726	57,081.90
平均		330,295	21,591.00
原単位（ℓ/百万）		65.37	

5. 環境活動計画

対象項目		推進責任者	取組内容	時期	回数/ヶ月	取組の状況
①	CO2の削減		②③④⑤⑥⑩の取組	通年		○
②	電力使用の削減	園田祐希	昼休み時の消灯	通年	12	○
			不在箇所の消灯	通年	12	○
			こまめに電源をON　OFFして管理	通年	12	○
			エアコンの設定温度の遵守（夏季26℃）	夏季	5	○
			〃　（冬期23℃）	冬期	4	○
③④⑤⑨	ガソリン・軽油	上嶋秀文	「エコドライブ１０のすすめ」の取組			
			１．ふんわりアクセル「ｅスタート」	通年	12	○
			２．加減速の少ない運転（車間距離を保とう）	通年	12	○
			３．早めのアクセルオフ（ｴﾝｼﾞﾝﾌﾞﾚｰｷの活用）	通年	12	○
			４．エアコンの使用を控えめに	通年	12	△
			５．アイドリングストップ	通年	12	○
			６．暖気運転は適切に	通年	10	△
			７．道路交通情報の活用（計画的な走行を）	通年	10	△
			８．タイヤの空気圧をこまめにチェック	通年	12	○
			９．不要な荷物は積まずに走行	通年	11	△
			１０．駐車場所に注意（違法駐車はやめよう）	通年	12	○
			重機の定期、使用前点検	通年	12	○
			ガソリン燃費	通年	12	○
⑥	灯油	園田祐希	ストーブの温度管理（目安温度２３℃）	冬季	3	○
⑦	産業廃棄物のリサイクル化推進	上嶋秀文	廃棄物の分別の徹底	通年	12	○
			適切な処理委託業者の選定	通年	12	○
			再資源化及び再利用の促進	通年	12	○
⑧	一般廃棄物	園田祐希	分別の徹底	通年	12	○
			廃棄物の重量実績把握	通年	12	○
			再生処理業者への委託	通年	12	○
			裏紙使用の徹底	通年	12	○
⑩	環境に配慮した工事	上嶋秀文	排出ガス対策型機械の使用	通年	12	○
			重機等への給油時の飛散防止	通年	12	○
			タバコ・ごみのポイ捨て禁止	通年	12	○
⑪	地域清掃活動	徳永修一	本社及び現場地域での清掃活動の実施	通年	12	○

◎徹底している　○出来ている　△まあまあ出来ている　×出来ていない

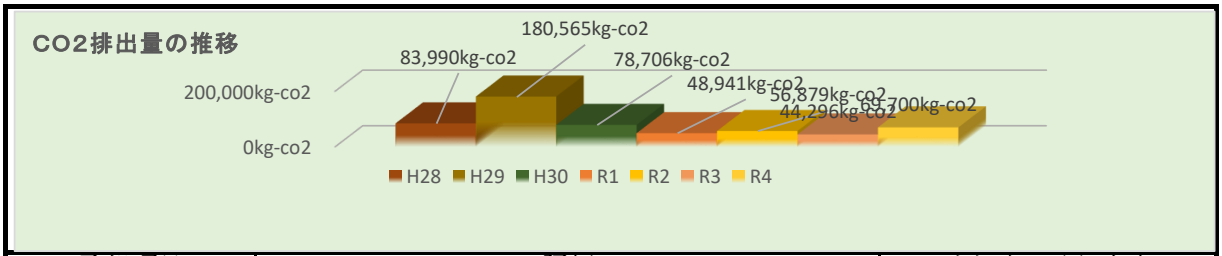
6.　環境目標と実績

取組み期間：　R4(2022)年度＝2022年9月1日～2023年8月31日

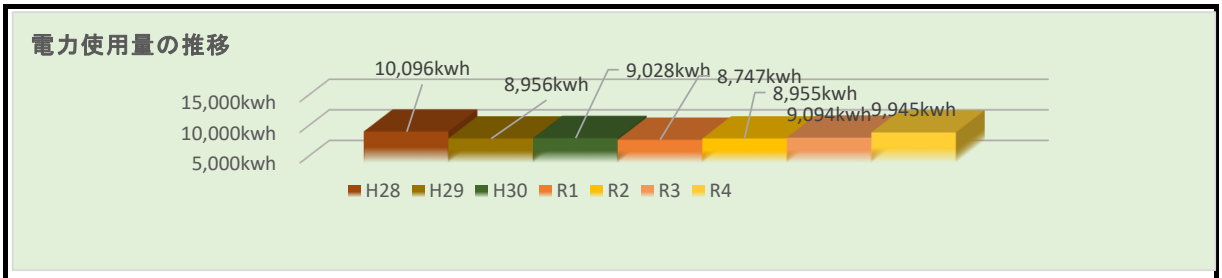
項目		内容	単位	目標 R4年9月 ～R5年8月	実績 R4年9月 ～R5年8月	達成率　＊1 (%)
①	CO２排出量		(kg-CO2)	目標 103,320	実績 68,731	150%
②	電力使用量	事務所+倉庫	(kWh)	目標 8,667	実績 9,945	87%
		現場		目標 8,081	実績 18,818	43%
③	ガソリン使用量		ℓ	目標 7,229	実績 6,256	116%
④	軽油使用量	軽油使用量	ℓ	20,807	15,851	131%
⑤	灯　油　使　用　量	事務所	ℓ	278	0	100%
⑥	産業廃棄物　リサイクル率		%	目標 100.0	実績 100.0	100%
⑦	一般廃棄物　排出量削減		kg	目標 環境活動の実施	実績 活動を実施した	100%
⑧	環境に配慮した工事		回	目標 年7回	実績 年7回	100%
⑨	ボランティア活動		回	目標 年1回	実績 年1回	100%
⑩	水道使用量		m3	目標 24.00	実績 14.00	171%

＊1　目標達成率：削減目標の場合　　目標÷実績×１００　　(%)
　　向上目標の場合　　実績÷目標×１００　　(%)
＊LPガスは目標には掲げていないが、環境活動は実施できた。
＊節水活動は目標には掲げていないが、環境活動は実施できた。

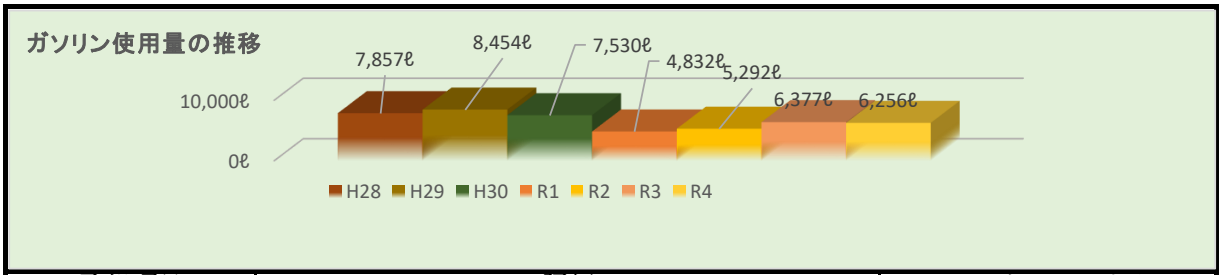
7.　環境活動の取組結果の評価及び次年度の取組内容　#1



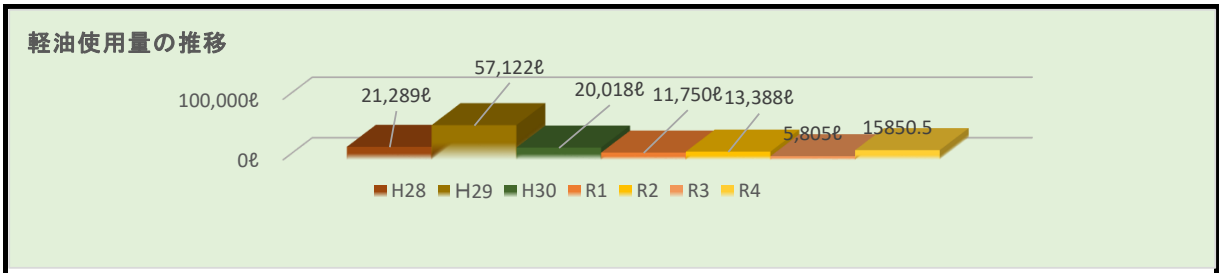
取組項目		評価		次年度の取組内容
①	C0２排出量	○	昨年と比較してC0２排出量は増加したが４期連続で70,000kg-co2を達成している。	次年度以降も同様に取組んで行く。



取組項目		評価		次年度の取組内容
②	電力使用量（事務所+倉庫）	△	前年数値より９％増えている。	全社的に節電に取り組む。

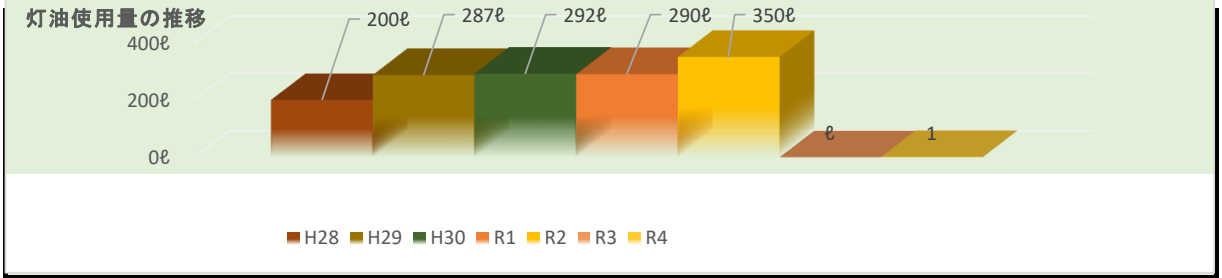


取組項目		評価		次年度の取組内容
③	ガソリン使用量	○	目標値に対して15%削減することができた。	・現場管理者を直行、直帰制にして無駄な燃料使用を削減する。 ・エコドライブの徹底

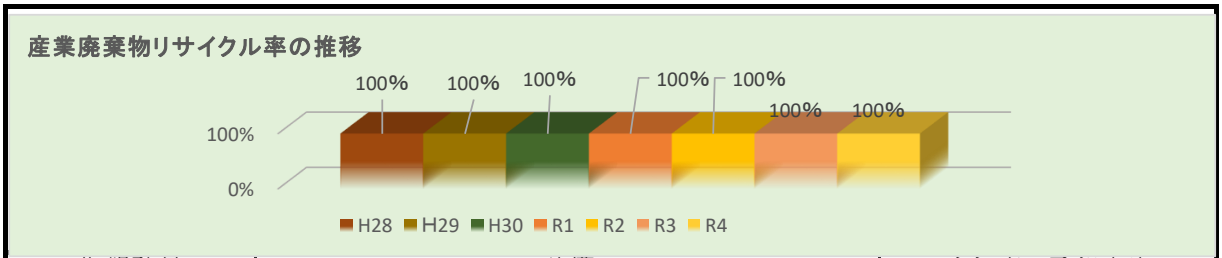


取組項目		評価		次年度の取組内容
④	軽油使用量	○	受注した工事の件数の増加により軽油の使用量が増加しているが、使用量の削減に取り組んでいる。	・原単位による比較管理 ・エコドライブの徹底 ・アイドリングストップの徹底

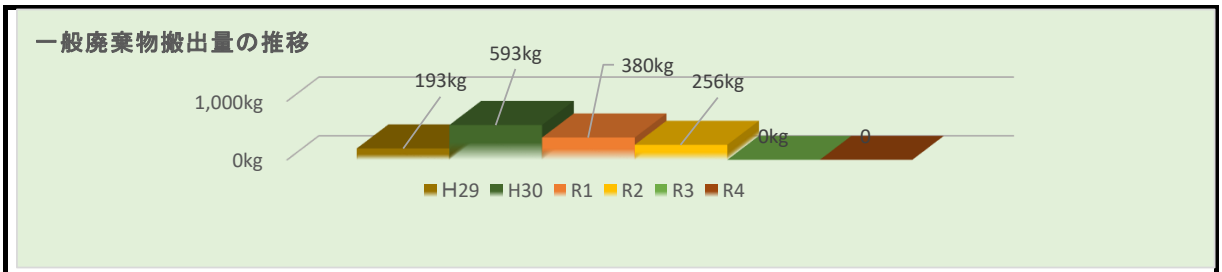
７．　環境活動の取組結果の評価及び次年度の取組内容　#2



取組項目		評価		次年度の取組内容
⑥	灯油使用量（事務所）	○	灯油の不使用とすることで使用量をゼロにすることができた。	不使用を継続する



取組項目		評価		次年度の取組内容
⑦	産業廃棄物リサイクル率	○	工事ごとに中間処理場へ搬入し、リサイクル率１００％を達成している。	・現場内再利用の検討



取組項目		評価		次年度の取組内容
⑧	一般廃棄物（可燃ごみ）	○	資源ごみも一般ごみもできるだけ排出しないように心がけることで前年比80％となった。	引き続きごみの排出量削減に取り組む。

⑨	環境に配慮した工事	○	前年同様、個々の現場でゴミの細かい分別やアイドリングストップ等の活動が図られており、概ね評価できる。	引き続き環境に配慮した工事に取り組む。

⑩	地域清掃活動	○	毎年11月に実施される熊本市親水緑地公園一斉清掃作業を継続して実施していく	・継続して行っていく

評価　：　○　評価できる　　△　どちらともいえない　　×　評価できない

環境活動状況

工事現場

地元自治会長および有志の住民の方々と集合写真

公園内の溜め枡が砂で埋まっていた為、桝内及び排水管内を清掃

公園内の水たまりのできる箇所に山砂を散布

地域における活動

地域清掃活動(河川除草)

集合写真

地域清掃活動(河川除草)

作業状況

現場近隣の清掃

作業状況

作業状況

毎年11月に行われている、井芹川の一斉清掃作業に社員全員で参加しています。

作業状況

毎年恒例の井芹川クリーン作戦には、日曜日に全員参加で朝からお昼ごろまで地元の住民とともに清掃活動をします。

作業状況

集草作業状況
西里地区の住民の方々と一緒に刈り草を積込、集草場所へ運搬します。

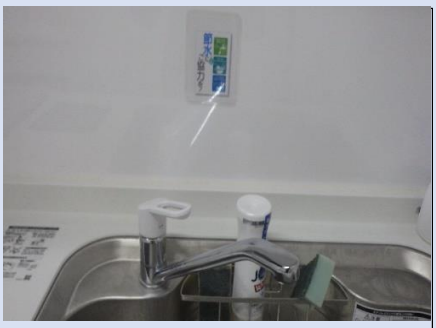
環境活動状況

社内喚起

節電呼びかけ

節電呼びかけ

節電呼びかけ



節水呼びかけ

節水呼びかけ

節水呼びかけ

エコドライブ呼びかけ

エコドライブ呼びかけ

エコドライブ呼びかけ

環境活動状況

社内喚起

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

分別回収の呼びかけ

裏紙利用の呼びかけ

裏紙利用の呼びかけ

裏紙利用の呼びかけ

8.　　環境関連法規等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は下記のとおりである。

摘要される法規名称	摘要規制事項	適用を受ける内容	順守評価
廃棄物処理法	建設工事廃棄物の適正な処理	一般廃棄物においては分別・減量。 建設廃棄物においては収集運搬業許可証の維持、保管基準の順守、委託契約の締結、マニフェスト伝票の交付・保管	問題なし
建設リサイクル法	廃棄物を現場で分別し、資材ごとに再利用する	対象工事の届け出、土木工事に係る建設副産物の再資源化及び利用促進	問題なし
オフロード法	建設工事に使用する機械による大気汚染防止	排出ガス対策型機械の使用	問題なし
騒音規制法	特定建設作業における騒音の規制	特定建設作業の届け出（杭打機、削岩機、バックホウ、ブルドーザ使用による作業時）	問題なし
振動規制法	特定建設作業における振動の規制	特定建設作業の届け出（杭打機、舗装版破砕機、バックホウ、バイブロハンマ使用による作業時）	問題なし
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵庫	リサイクル料の支払い、廃棄時の適正処理	問題なし
フロン排出抑制法	第1種特定製品（パッケージ型エアコン）（屋外機）	3か月に1回以上の簡易点検	問題なし
自動車リサイクル法	社用車、ダンプ・トラック	リサイクル料の支払い、廃棄時の適正処理	問題なし

環境関連法規への違反、訴訟はありません。また、過去３年間に関係当局からの違反等の指摘・苦情はありません。

代表者による全体の評価と見直し	承認	作成
	堀本 印	戸留 印

実　施　日	令和4年10月10日(月)　　8：00　～　9：00
場　　所	本社　会議室
出　席　者	社長、環境管理責任者、専務取締役、工事部長、事務局
使用した資料	エコアクション21文書（ガイドライン等）エコアクション21環境レポート、 記録、環境への負荷の自己チェックシート
評　　価	本年度は本社事務所より比較的近い場所の工事が多く、工種や規模的にも作業機械がそう多く燃料を使用するものではないためC02排出量及びガソリン使用量が目標値を上回る結果となった。 近年の熊本県、熊本市の公共工事は遠方の工事が多くないため、次年度以降も本年度と同程度の水準で推移していくものと予想される。 したがって、次年度以降は現在よりも環境負荷を抑えた工事を行う工夫を全社員で考え、効果のある対策は積極的に取り入れていくこととする。
見　直　し	本年度の電力使用量実績が目標に対して87%、灯油使用量がゼロなっているためと前年に比較して達成率が高い結果となった。 しかし、昨今の世界規模での温暖化による熱中症対策の観点からも、本社及び現場事務所等の空調設定温度を適切に設定することは社員の健康や社員の家族の生活を守るためにも必要であると考えている。 なお、方針、目標の見直しを行い、新たに目標を設定しなおした。
指示事項	・公共性の高い業務に取り組むという自覚を持ち、自身の健康管理・体調管理を徹底することを指示した。 ・業務に取り組むにあたって、環境負荷を抑えるアイディアが見つかったときは全社で提案・共有し、積極的に取り入れていくことを指示した。